



# 医学部だより

第27号

2013.10.1



## これからの医学部に必要なこと

医学部長 苛原 稔

今年はこのほか暑い夏でした。高知県四万十市では最高気温が40度を超える日が数日も続き、あの北海道でも30度を超える日が連日となり、日本全体が亜熱帯化したような気候になったようです。徳島でも毎日35度前後の日が続いたため、徳島大学でも7月下旬から8月上旬にかけて電気需要が限度に近づき、昼間に冷房が制限される事態になり、また、雨が降れば時間100mmに近いゲリラ豪雨となり、排水量が市の予想を大きく上回って、大学内の道路は川のように流れ、我が医学部でもいくつかの校舎が水に囲まれ、大騒動した日がありました。まさに、異常気象の時代が到来しているようです。

4月に医学部長を拝命して半年が過ぎ、今一番感じることは、徳島大学医学部にとって危急の課題は、「組織改革とグローバル化を迅速かつ大胆に進めなければならない」ということです。

今の医学部の組織は基本的に開学から積み重ねてきた分野やセンターからできており、法人化でも大きな変更はせずに今に至ります。そのため、60年を超えた今、組織疲労は大きくなっており、これを適切に変えていかなければならない時期にさしかかっています。多くの教授の顔ぶれが変わるこの数年を逆にチャンスととらえ、戦略的な計画をたててより機能的な組織づくりを進めたいと思います。

一方、「グローバル化」はもちろん国際化を進めるということですが、今求められている「グローバル化」は、各分野に多数の外国人留学生を受け入れることではなく、逆に徳島大学医学部から世界に羽ばたく人材を養成すること、世界に挑戦する研究者を輩出すること、なのです。そこで、医学科の学生には米国医師免許にチャレンジする挑戦心溢れた学生を増やしたい

と思います。もちろん、栄養学科や保健学科でも同様に諸外国での試験に挑戦する学生を増やしたいと思います。そのために、医学部の総力を挙げてグローバル化に向けた整備をしたいと思っています。特に、英語力の強化が必要になります。これからの半年はこの方面に力を入れていきたいと思っています。

ところで、今年、栄養学科は開設されてから丁度50周年を迎え、8月31日にその記念式典・講演会及び祝賀会が盛大に行われました。医学部内に設置されている栄養学科は他になく、長年にわたってわが国の栄養学を牽引してきました。早くから医療に栄養学の必要性を感じてこの栄養学科を創設した、当時の児玉学長、黒田医学部長の英断に改めて敬意を表するとともに、この50年間に全国各地で活躍する多数の管理栄養士や研究者を輩出した栄養学科関係各位に感謝いたします。来年度から「医科栄養学科」としてリニューアルし、特に医療面で活躍する管理栄養士の養成をその使命のひとつに加えることになり、徳島大学からの新しい学問の創造と発展を期待したいと思います。

また4月に、古くなっていた大塚講堂が大塚製菓株式会社のご厚意でリニューアルされ、記念市民講座が盛大に開催されました。今度の大塚講堂は約700名がゆったり座れる大ホールに加えて、100人規模の教室が2つとれる小ホールなど、講義だけでなく、学会開催にも適しており、とても使い便のよい施設となりました。大事に使っていききたいと思います。

医学部を取り巻く環境は日々変化していきます。それを見据えて、将来への布石を打つ時期と思います。どうぞ、ご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。

### 目次

### CONTENTS

巻頭言	1	徳島医学会報告	8
海外留学体験記	2	受賞者紹介	8
ハノーバー医科大学とのシンポジウム報告	3	OSCE 成績優秀者紹介	9
Student Lab から世界へはばたけ	4	総合体育大会入賞者	9
オープンキャンパス報告	5	数字で見る医学部	10
学遊抄	6	新任教職員あいさつ	11
白衣授与・Student Doctor 認定証授与式	6	退職者ご挨拶	11
学生委員会から	7	新任准教授紹介	11
教務委員会から	7	栄養学科創設50周年記念事業報告	12
医学部行事予定	7	編集後記	12



# 海外留学体験記

## テキサス大学 サマー・リサーチ・プログラム

**報告**
**医学科4年 森本佳奈**

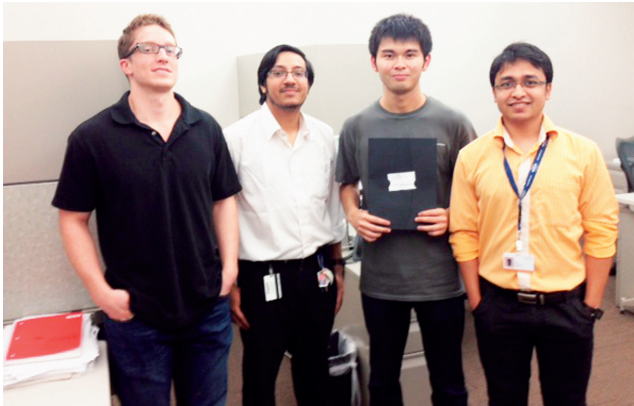
私は今回6月末から8月中旬までテキサス大学ヒューストンヘルスサイエンスセンターのサマーリサーチプログラムに参加させていただきました。精神科の中でも小児の自閉症を専門にする研究室に配属され、日米の自閉症児の親ストレスの比較研究の準備段階として現在までに日米各々で行われている自閉症研究の比較検討を行いました。また自閉症のクリニックを見学させてもらうことができました。自閉症の客観的評価や行動分析についてお話を聞いたりディスカッションをしたりすることができ、とても新鮮な経験でした。また休みの日に先生の御自宅にお伺いし、御家族と食事をしたりショッピングに行ったりと公私共々御世話になりました。その他にも日本人の先生方の御厚意で、テキサスメディカルセンター内の臨床や研究現場を見学させていただきました。2ヶ月と短い間ではありましたが、一緒にプログラムに参加した中国・台湾からの友達をはじめ、様々な方との出会いがありました。最後になりましたが今回留



学するにあたってお世話になりました玉置前医学部長をはじめ、諸先生方に厚く御礼申し上げます。

**医学科4年 下園恒明**

6月末から2ヶ月間、テキサス大学ヒューストンヘルスサイエンスセンターのサマーリサーチプログラムに参加させて頂き



ました。私は放射線科で Dr. Narayana のラボに配属され、多発性硬化症のMRI画像解析についての研究を行いました。ラボはインド、中国、フランスなど様々な国からのメンバーで構成され、国際色の高い雰囲気でした。ラボミーティングやジャーナルクラブでは常に熱いディスカッションが交わされる一方、休日にはホームパーティーが行われるなど、充実した時間を過ごせました。また、MD アンダーソンがんセンターで研究をされている日本人の方に研究現場を見学させていただく機会も得られました。私にとって2ヶ月もの海外滞在は初めての経験であり、刺激に満ちあふれた生活を送ることができました。特に、現地の学生や、同じプログラムに参加していた上海、台湾の留学生たちとの交流を通じて、多くのことを学ぶことができました。

最後になりましたが今回このような貴重な機会を与えてくださった玉置前医学部長、村澤前医学部長補佐をはじめ諸先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

**医学科4年 保科耀司**

テキサス大学ヒューストンヘルスサイエンスセンターでのサマーリサーチプログラムに参加させて頂きました。私は胸部心臓血管外科学分野に配属され、オベヤクリニックの見学、朝のカンファへの参加などを通してアメリカでの医療現場を体験しました。短い期間ですが自分のポストであった Dr. Azizzadeh のもとでアメリカの医療を肌で感じ、また病院での様々な出会いを通じてとても刺激的で充実した毎日をおくることができました。やはりアメリカは多国籍の国なだけあって医療の世界にも全国各地から様々な人種の人々やバックグラウンドをもった人々が集まっていて、一緒に話しているうちに自分の物事に対する見方や考え方にかなりの影響を与えられました。また彼らの医療に対する姿勢や積極性から様々なことを学ぶことができました。最後になりましたが、留学するにあたりお世話になりました



玉置俊晃教授、村澤普恵前医学部長補佐をはじめ諸先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

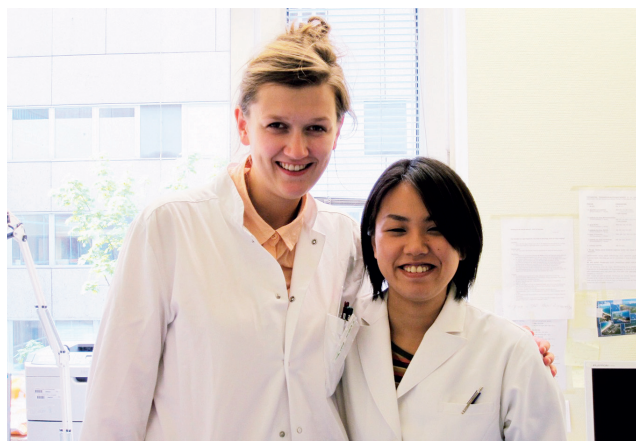
# ハノーバー医科大学 交換留学プログラム

報告

医学科5年 平田 愛美

私は5月の1ヶ月間、ハノーバー医科大学の神経内科にて臨床実習を行いました。1ヶ月の間、神経内科病棟、Stroke Unit、神経生理学検査部、神経救急部をまわりました。私は日本でOSCEを終えていたので、医学生に通訳してもらいながら、患者さんに神経診察などの手技もさせていただきました。EUでは医学生は臨床実習を3年生から始め、高学年には研修医並みの臨床能力が要求されます。医師からだけでなく、医学生からもたくさんのことを教わりました。また、実習を通して良い点・悪い点でも日本の病院との違いについて考えさせられました。

寮では様々な国の医学生や研究者と交流して、楽しい一時を過ごしました。言葉の面で苦労もしましたが、多くの人に助けられ、有意義な実習となりました。そして、海外に長期間滞在したことで日本の良さについて再認識しました。このような素



晴らしい機会を与えてくださった諸先生方、お世話になりました関係者の皆様、本当にありがとうございました。

医学科4年 平川 貴規

本夏、留学生としてドイツのハノーバー医科大学の小児外科で一月ほど実習をさせて貰った。少ない紙面だけれども、思ったことを幾つか紹介したい。



●さみしい 22歳ともあろう男がさみしいと思うのだから滑稽だ。でも、和食、あの生ぬるい湿った夏の夜、級友、父母、とかくさみしいと思った事は何度もある。普段つまらないと思ったり気にも留めない事がさみしいと思える、そういう幸せも留学ならではの事じゃないだろうか。

●言葉が違うということ 言語の性質から、日本のように敬語を使いまくる文化ではない。歳が離れていても、目上の立場の人でも、初めて会う人も、どこか安心感をもって話ができる。だからオペのチームは皆リラックスしてとてもいい雰囲気だったし、クラスのパーティで飛び入り参加した時でさえ暖かさを感じた。こういう部分は特に羨ましかった。

●高齢化社会と医療 ドイツは労働力の補充のために、移民政策も行ってきたし、外国籍の居住者も多い。彼らは国民保険を受けられず、入院や手術で到底払えないような額のお金がかかる。そうすると医者は皆を助けたいと思っても、社会が彼らを選択してしまふ。改めて日本の国民皆保険は重要な制度だなと感心。高齢化社会との向き合い方は、今後の医療にとっても大きな課題だと思う。

最後に、この場を借りて玉置前医学部長をはじめ、今回の留学に関してお世話になった全ての先生方、徳島大学の職員の方々に心より御礼を申し上げます。本当にお世話になりました。

## ハノーバー医科大学とのシンポジウム報告

予防環境栄養学分野 高橋 章

8月11日ハノーバー医科大学からの教員をお招きして“International Symposium Hannover-Tokushima Research Communication”を大塚講堂で開催しました。“Diabetes mellitus”と“Organ transplantation”の二つのセッションでハノーバー医科大学と徳島大学双方の教員から5講演と、徳島大学から20のポスター発表がありました。徳島大学内外から100名以上の参加者があり活発な意見交換が行われました。ハノーバー大学はドイツ内の移植医療に関する拠点病院であるとともに、医工連携による研究・教育も積極的に進められています。今回のシンポジウム開催により、両大学間でいくつかの共同研究に向けての話し合いがあったと聞いています。

現在ハノーバー医科大学と徳島大学は学術交流協定を結んでおり、大学全体として交流を積極的に推進しています。今後も皆さまの積極的なご参加をお願いいたします。



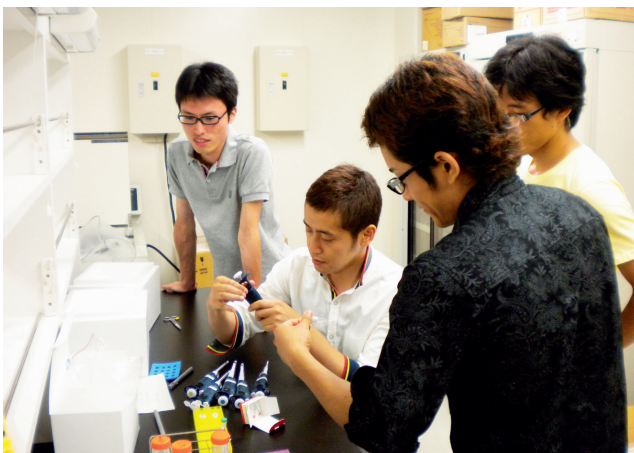
# Student Labから世界へはばたけ

徳島大学医学部Student Lab運営委員会

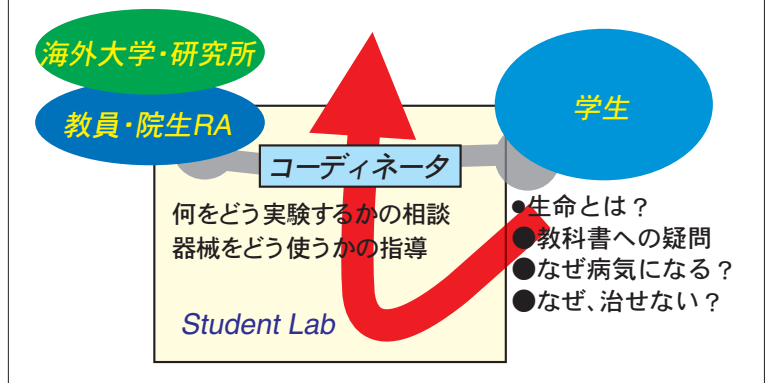
医学は日進月歩であり、その情報量は爆発的に増大しています。臨床現場においても、日々、新しい情報を身につけようとするリサーチマインド（探求心・研究心・好奇心）がなければ、より良い医療を実践することは困難です。徳島大学医学部では、リサーチマインド育成を目的として新たな基礎医学実習を実践しています。

まず、学生が自由に使える、学生のための実験室を立ち上げました。それが、Student Labです。Student Labにはクリオスタット、PCR、蛍光顕微鏡など、医学部の1研究室に匹敵する備品が揃っています。また、専属の助教がコーディネータとして配置されています。学生が日頃疑問に思っていること、知りたいと思っていることを、コーディネータに相談しながらStudent Labで実験を自ら行う、そのようなビジョンを描いています（図1）。コーディネータ以外にも相談・指導役として、医学部基礎系全分野の若手教員から構成されるStudent Labサポートチームが担当します。

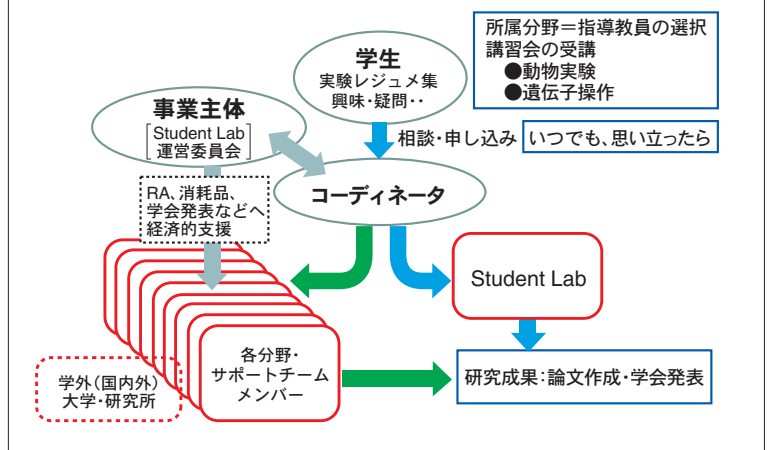
実際の実習体制は図2のようになっています。①各年度初めに動物実験および遺伝子操作に関連する講習会を学生全員受講する。その際、サポートチームが作成した実験レジメ集（サポートチームの各メンバーが、自分の得意とする領域のテーマで、学生が体験的に実施できる実験をレジメ的にまとめたもの）を配付する。②学生は、実験レジメ集から自分のやりたい実験を見つけた、あるいは、講義や日常から疑問に思ったこと、興味を持ったことがあれば、コーディネータへStudent Labの利用を申し込む。③コーディネータは、実験レジメ集からの申し込みであれば担当分野を学生に紹介し、Student Labで行える実験であれば自ら引き受ける。④運営委員会は、実験を担当する分野ないしはStudent Labへ消耗品代を支給する。⑤実験が終了



【図1：Student Lab の概念図】



【図2：Student Lab を利用した実習体制】



した際には、学生は簡単な報告書を提出する。⑥そのような実習を重ねながら、サポートチームは、学生に国際学会への参加や論文作成を促し、運営委員会は旅費などのサポートを行う。Student Labを利用した学生が共著者になる論文には、Student Labを所属名として記載する。このようなStudent Labシステムが2011年度より稼働しています。

Student Lab利用学生へは「Student Lab手帳」を配布し、Student Labで行った実験や、学内で行われている各種セミナーへの参加についての記録を残していくことで、将来的に、大学院の単位として応用できるよう準備中です。国際化も大学にとって重要な課題です。バーチャルな実験室であるStudent Labを国際版に拡大して、海外の大学から実験レジメを募る予定です。学部間・大学間で交流締結している大学からはじめ、積極的に展開していきたいと考えています。

Student Lab 公式サイト

<http://www.tokushima-u.ac.jp/scme/student/>

オープン

Open Campus

キャンパス

医  
学  
科

8月9日、大塚講堂において医学科オープンキャンパスが開催されました。

記録的な猛暑の中、高校生260名と多数の参加がありました。当日は、苛原医学部長、安友医学科長の挨拶の後、医学科紹介、基礎・臨床のミニ講義が行われました。ミニ講義では、法医学の西村教授



により「裁判医学としての法医学、予防医学としての法医学」と題して、死因を解明する法医学の医学・医療における重要性について解説が

行われ、呼吸器・膠原病内科学の西岡安彦教授により「がん細胞の科学と医療—研究から生まれる治療—」と題して、ご自身のキャリア形成や研究成果をもとにお話があり、参加者は非常に熱心に講義に耳を傾けていました。その後、高校生は10グループに分かれて、医学科学生のエスコートにより、総合研究支援センターやスキルス・ラボ、あるいは医学科、疾患プロテオゲノム研究センター、疾患酵素学研究センターでご協力頂いた各研究室の施設見学を行いました。また、同時にアドミッションセンターの前村哲史特任准教授による保護者対象の入試説明会が行われました。半日という短い時間ではありますが、スチューデントラボ、医学研究実習、海外留学プログラム、MD-PhDコース、PBLチュートリアル、シミュレーション教育、クリニカルクラークシップなど、本学医学科の教育カリキュラムの特徴と研究体制の充実を十分にアピールできたのではないかと思います。(赤池雅史)

栄  
養  
学  
科

猛暑の8月8日午前に、改修後の大塚講堂にて栄養学科のオープンキャンパスを開催しました。まず宮本学科長が設立50周年を迎える栄養学科の歴史を紹介され、次に入試委員の寺尾から、平成26年度入学選抜の概要および平成26年度からの医科栄養学科への改組について説明しました。ミニ講義として、疾患治療栄養学分野の濱田教授による「医療の根幹をなす医科栄養学への招待」と題する講演が行われました。その後、参加者は各班に分かれて、栄養学科棟内施設や2つの分野による卒業論文中間発表会の見学を行いました。当日は高校生の参加者が約270名と大変多かったため、見学は高校生のみとして、保護者の方々にはその間、アドミッションセンター・前村准教授により保護者向け入試説明会を行いました。7月の入試要項発表において栄養学科が来年度医科栄養学科に改組することが公表されたことから、改組にいたる推移と改組後の学科の将来展望を詳細に丁寧に説明することを心がけました。濱田先生の講義では医学に基礎を置く栄養学の重要性を臨

床の立場から参加者に説明され、学科の今後の方向性を示す内容になりました。参加者は学科の改組に



大変関心を示してくださり、入試内容への質問とともに病院で活躍する栄養士の将来像について多くの質問が寄せられました。入学者を受け入れる側として、学科を今後もさらに充実させることへの思いを強く持ちました。学科棟等の見学では各研究室に案内係をつけて説明を行い、参加者は栄養学研究の一端に直接ふれていただきました。栄養学のアピールのためにもよい機会になったようです。(寺尾純二)

保  
健  
学  
科

保健学科のオープンキャンパスは、8月9日(金曜日)の午後に、大塚講堂と保健学科棟を使用して実施されました。大塚講堂は改修されて、今年の4月に新装オープンしており、新しくなった大ホールで多くの高校生と保護者が参加して行われました。事前にインターネットで参加申込みを行う方法をとりましたが、592名(学生が419名、保護者が173名)の申込みがありました。当日に来られた方もいて、大塚講堂の大ホール(定員655名)がほぼ満席になりました。また、県外からも多くの方に参加していただきました。

大塚講堂では、はじめに学科長の挨拶があり、続いて各専攻



主任による各専攻の紹介、入試委員長の入学試験の概要説明などが行われました。これらの保健学科の概要説明の後、保健学科棟に移動して、施設見学と専攻別相談会が行われました。

施設見学では、各専攻に分かれて、さらに、参加者が多いために、少人数のグループに分かれて各実習設備や実験設備などを見学して頂きました。各専攻では、いろいろアイデアを出して施設見学が興味深くなるように工夫していましたが、放射線技術科学専攻では、昨年と同様に、2年生や3年生の在學生に参加してもらい、参加者の誘導や、更に実験設備や実習設備の説明も學生にしてもらいました。参加した高校生にとっては、大学の実験設備や実習設備がより身近に感じられたようでたいへん好評でした。多くの學生が多くの設備を見学するため、あらかじめ分単位のスケジュールを組み準備を行って行っていましたので、当日は、ほぼスケジュール通りに実施することができました。専攻別相談会では、各専攻が工夫をこらして各専攻の特色や概要の説明をしており、各専攻の特色を十分に参加者にPRできたのではないかと思います。オープンキャンパスは、大学の教育内容や研究設備などを受験生に知って頂く良い機会と、少子化が進んだ現在においては、受験生の確保のために、どの大学もオープンキャンパスに力を入れています。本学科においても、オープンキャンパスを更に工夫をして、参加する受験生にとって保健学科をより魅力的に感じてもらえるようなオープンキャンパスにしていきたいと思っています。(近藤 正)

## 学遊抄 ボートと解剖学

顕微解剖学分野 石村和敬

学生時代ボート部に入っていなかったら、多分解剖学の教師にもならなかったし、今ここでこんな文章を書くことにもなっていなかったと思う。

私が広島大学に入学したのは昭和44年。全国に学園紛争の嵐が吹き荒れていた時で広島大学も活動家学生によって封鎖されていた。授業がなくてヒマをもてあましていたら同郷のY君がボート部に入ったと言う。そう言えば私の父親も学生時代ボート部だったと思い出し、ちょっと覗くだけのつもりで彼の練習について行き、結局そのまま入部してしまった。体格で劣る私はAクルーには入れなかったが、それでも2年生の時にはBクルーに入り、西医体のオープンレースで銀メダルを獲得した(この時Aクルーは優勝した)。ただ、私のピークはここだけで、このあと引退する4年生まで目立った成績をあげることはできなかった。ともかくボートは体力のいるスポーツで、練習がきつかった。しかし、それで逃げては男がすたるからやめてはい



西医体のオープンレースで2位になった時のメンバー。  
向かって左端が筆者。

けないと最後まで頑張り通した。自慢できるのはこれだけだが、これが重要だったと思う。

もちろん勉強だってやった。教養の時も面白いと思ったが、これについては省略する。基礎の中では生化学が好きだった。系統的でわかりやすい講義だった。生命現象の基盤には必ず酵素や化学物質が存在する、ということに未熟な頭で認識した。その時のノートは今も手元に残してある。実は臨床のほうはもっと面白くて、もっと一生懸命やった。当然臨床医になるつもりだった。

さて、最終学年になってどの科に入局するか迷っていた時、内科医の兄曰く「どうせ臨床をやるなら先に基礎の大学院に行って学位をとっておいたほうがいい(そのほうが楽だ)」。そんな折、たまたまボート部の先輩に出会ったので「確実に4年で学位を取れる所はどこですか？」と聞いたら「藤田尚男先生の解剖学教室」とのこと。随分打算的な話だが、こうして解剖学の大学院に入ることになった。ボートが私の進路を決めたわけである。研究がどんなものか全く知らなかったが、藤田先生にうまく誘導されて、何となくその面白さがわかりかけてきた頃に助手になるよう言われ、つい受けてしまった。で、学位取得の目処がたった所へ今度は大阪大学に移るから一緒に来いとおっしゃる。しばし悩んだが、結局、学位を取ったら臨床へ、という方針を転換し、解剖を続けることにした。そのおよそ10年後この徳島大学に赴任し、来年定年を迎えようとしているという次第である。随分良い加減な話で申し訳ないが、「やるからには一生懸命やる」という気持ちだけは一貫して持ち続けてきた。一生懸命やっていると、それなりに格好がつく(ものだと思う)。だから、学生諸君も一生懸命やって欲しい。定年退職を前にした人生の先輩からのささやかな助言だと考えていただければ幸いである。

## 白衣授与・Student Doctor認定証授与式



医療教育学分野 赤池雅史

平成25年4月18日、大塚講堂にて、医学科5年生97名を対象に、白衣授与・Student Doctor認定証授与式を行いました。本学医学科では所定の学内成績を修め、さらに共用試験医学系CBTおよびOSCEに合格した医学生をStudent Doctorに認定しています。認定を受けた学生は、5～6年次のクリニカルクラークシップ(診療参加型臨床実習)において、患者さんの同意を得た上で、指導医のもとで診療チームの一員としての役割を有しながら、医師に必要とされる知識・技能・態度を修得します。この制度は、社会および患者さんに対して、臨床実習学生が一定レベルの知識と技能を有していることを示すことも目的としています。授与式では、苛原医学部長と安井病院長から激励のお言葉があり、三澤将大さんによる宣誓に続いて、山本幸代さんが代表として白衣とStudent



Doctor認定証を授与されました。2年後の優れた医師の誕生に期待したいと思います。

## ● 学生委員会から ●

学生委員会は、学生生活を支援するための組織であり、医学科4名、栄養学科2名、保健学科3名の教員で構成されています。学生さんの経済的支援、指導・相談、表彰・懲戒、課外活動に関する事項などを担当させていただいております。

今年度は、これまで大きな問題なく経過してまいりましたが、学生さん同士の間関係のトラブルが数件発生しております。実習の班やサークルの中では人間関係が密であり、同じメンバーで長い時間を一緒に過ごすことが多いですが、「親しき仲にも礼儀あり」ということばを今一度思い出していただきたいと思ひます。

この原稿が出版される頃は期末試験のシーズンを迎えていると思ひますが、試験における不正行為が発生しないよう、ご注意願ひます。昨年度は、数人の学生さんが、カンニング

### 医学部学生委員会委員長 有澤孝吉

の発覚によって学期のすべての単位が取り消され、留年となりました。カンニングはリスクが高く、割の合わない行為であることを認識していただきたいと思ひます。

最後に、今年も精神的な問題による休学が数件ありました。真面目で成績のよい学生さんが、ふとしたきっかけで心身の不調を訴え、休学に至ることがあります。このような学生さんは、10%の時間、エネルギーを勉強以外のことに振り向けずにはいかうでしょうか。また、自分の精神状態を常に客観的に見るができるようになることも大切であると思ひられます。

学生委員会は、学生の皆様が、楽しく有意義な学生生活を送られることを心からお祈りしてあります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

## ● 教務委員会から ●

医学科では、卒業試験と臨床実習クリニカルクラークシッ プの合否判定について判定基準を公開しています。①卒業試験本試験で60点未満の科目が6つ以上ある。②卒業試験全科目の本試験および追試験の平均点が60点未満である。③卒業試験の追再試験で60点未満の科目がある。④臨床実習クリニカルクラークシップ評価で60点未満(臨床病理については「不」)の科目がある。⑤6年生OSCEの総合点が、その年度の「平均-2SD」を大きく下回っている。⑥臨床実習クリニカルクラークシップでの全科目を通した履修態度にきわめて問題がある。以上のいずれかに該当する場合、原則として総合判定不合格としています。以前は、教授会での申し合わせに留めていましたが、基準がはっきりしないとまじめに勉強している学生が不安がり、サボっている学生には、余り危機感がないという状況が見られましたので、公開に踏み切りました。公開した以上、もはや救済措置は、ありませんので学生諸君は、心して欲しいと思ひます。講義室や自習室の

### 医学部教務委員会委員長 西村明備

不足を解消しようとする工事が続き、不自由を強いておりますが、藤井節郎記念医科学センターが完成した後、プレハブの講義棟を解体撤去し、跡地に総合研究棟を新築する予定です。藤井節郎記念医科学センターの2階は、現在、基礎B棟3階第3・4講義室を使っている栄養学科の学生さんが使い、第3・4講義室を自習室にし、総合研究棟が完成すれば、大塚講堂の2階を使っている医学科学生が総合研究棟4階の講義室、保健学科が3階の講義室を使えるようになり、かなり充実すると考えています。しかしながら、医学科の定員増から自習室のスペースは、まだまだ、充分というレベルではありませんので、さらに多方面に働きかけをしていきたいと考えています。また、医学部の学生による図書館のグループ学習室やミーティングルームの使用も多く、やる気のある学生達が、活発に学習している様子がかうかえます。教務委員会では、問題学生のサポートだけでなく、やる気のある学生のサポートもしていきたいと考えております。

## 医学部行事予定 (平成25年10月～平成26年3月)

- 10月1日(火) 後期授業開始
- 10月25日(金) 解剖体慰霊祭
- 11月2日(土) 徳島大学開学記念日
- 11月2日(土)～4日(月) 大学祭
- 11月5日(火) 第108回医師国家試験願書受付 (11月29日(金)まで)  
試験日：2月8日(土)～10日(月)
- 11月21日(木) 第97回助産師国家試験願書受付 (12月13日(金)まで)  
試験日：2月13日(木)
- 第100回保健師国家試験願書受付 (12月13日(金)まで)  
試験日：2月14日(金)
- 第103回看護師国家試験願書受付 (12月13日(金)まで)  
試験日：2月16日(日)
- 12月16日(月) 第66回診療放射線技師国家試験願書受付 (1月6日(月)まで)  
試験日：2月20日(木)
- 第60回臨床検査技師国家試験願書受付 (1月6日(月)まで)  
試験日：2月19日(水)
- 12月25日(水) 冬季休業 (1月7日(火)まで)



- 26年
- 1月上旬 第28回管理栄養士国家試験願書受付 (1月中旬まで)  
試験日：3月下旬
- 1月18日(土) 大学入試センター試験 (19日(日)まで)
- 2月25日(火)～2月26日(水)  
入学試験(前期日程)
- 3月12日(水) 入学試験(後期日程)
- 3月18日(火) 医師国家試験合格発表
- 3月24日(月) 卒業式・大学院修了式
- 3月25日(火)～3月31日(月)  
学年末休業
- 3月25日(火) 助産師、保健師及び看護師各国家試験合格発表
- 3月31日(月) 診療放射線技師及び臨床検査技師国家試験の合格発表
- \*管理栄養士国家試験の合格発表は、5月上旬

# 徳島医学会報告

## ■ 第247回徳島医学会学術集会(平成25年度夏期)

実践栄養学分野 酒井 徹

猛暑の中、8月4日(日)に第247回徳島医学会学術集会が開催された。今回は改修工事が終了したばかりの大塚講堂が会場であった。午前中は、教授就任講演が3題であり、「女性の生涯を通じて考える女性医学」(生殖補助医療学分野 安井敏之教授)、「眼科における画像診断の進歩」(眼科学分野 三田村佳典教授)、「コレステロールによる、マクロファージの病態制御 - ACTA1 陽性後期エンドソームの発見とその機能解析」(人体病理学分野 坂下直美教授)の講演が行われた。その後、ポスターセッション会場に移り、3会場で活発な討論が行われた。今回の演題数は55題と近年では最大となった。第30回徳島医学会賞受賞者講演は、疾患プロテオゲノム研究センターの小松正人先生および手束病院の八木恵子先生の両氏により行われた。午後の公開シンポジウムは、「泌尿器疾患の最新治療と腎疾患・がんの栄養管理」というタイトルで5人のシンポジストによる講演が行われた。神戸大学大学院腎泌尿器科学分野藤澤正人教授は、ロボット支援手術に関する最新知見を実際の手術動画を示しながら紹介を行った。泌尿器科学分野の高橋正幸准教授は、泌尿器がんの薬物療法、山本恭代講師は女性の骨盤臓器脱・尿失禁に関して市民に分かりやすい平穩な語り口での講演を行った。疾患治療栄養学分野の濱田康弘教授は、人工透析と低栄養との

関連および栄養サポートに関する講演、神戸大学大学院病態代謝学分野宇佐美眞教授からは、がんによる悪液質のメカニズムおよびがん予防に対する食事に関する講演がなされた。今回の学会の特徴としては前述のとおりポスター演題が近年では最大になったこと、そして市民参加も多かったことであった。今後も、医師会との協力のもと徳島医学会を盛り上げて行くと共に、広く市民にも医学研究の成果を還元できる学術集会を目指すことを祈念して稿をおきたい。



### ◆◆ 各賞受賞者 ◆◆

第247回徳島医学会学術集会において、下記の受賞者が選考されました。

#### 第31回徳島医学会賞

大学：影治 照喜 (徳島大学病院 地域脳神経外科診療部)  
スマートフォンとインターネットを用いた海部病院遠隔医療支援システム (k-support) の導入

医師会：中瀬 勝則 (徳島市医師会)  
徳島市医師会の COPD の対策

#### 第10回若手奨励賞

寺奥 大貴 (徳島大学病院 卒後臨床研修センター)  
LED 光照射による大腸癌細胞制御に関する検討

石谷 圭佑 (徳島県立中央病院 医学教育センター)  
ER での緊急開胸術を経験して

井出 千晶 (徳島赤十字病院)  
迅速なバイスタンダー心肺蘇生法 (CPR) により突然死を免れ社会復帰できた2症例



## 若葉会奨学賞

医療法人若葉会の寄贈の趣旨に沿い、徳島大学医学部並びに徳島大学大学院医科学教育部、栄養生命科学教育部及び保健科学教育部に在学する私費外国人留学生（研究生を含む）の、奨学に資することを目的に授与されるものです。本年度は、次の2名が授与されました。

医科学教育部 医学専攻  
博士課程2年次 DANG VAN HUY

医科学教育部 医学専攻  
博士課程3年次 Chinbold Enkbold



## 平成25年度 6年生 OSCE 成績優秀者

平成25年6月29日、臨床実習クリニカルクラークシップの総仕上げとして、6年生を対象としたAdvanced OSCEを実施しました。成績が特に優秀であった学生には、赤池教育支援センター副センター長より表彰状が授与されました。このような臨床技能試験を通して、臨床能力の向上が期待されます。

**最優秀賞** 野村 研人

**優秀賞** 伊達 恵美、亀田香奈子、西川 大定、樋口せいか、  
小林 次郎、東口 素子、米田 勝彦、金井 友宏、  
森脇 由香

**部門賞(概略評価部門)** 岩佐あゆみ、後藤 泰、島田 俊樹、山崎 悠平

**部門賞(評点評価部門)** 黒岡 直子、丸山 悟史、林 宏子



## 第65回西日本医科学生総合体育大会

### 柔道 女子個人戦

**準優勝**

加 嶋 洋子  
(医学科6年)



### 剣道 個人の部

**準優勝**

樋 口 せいか  
(医学科6年)



# 数字で見る医学部

## ◆ 入学試験（医学・栄養・保健）

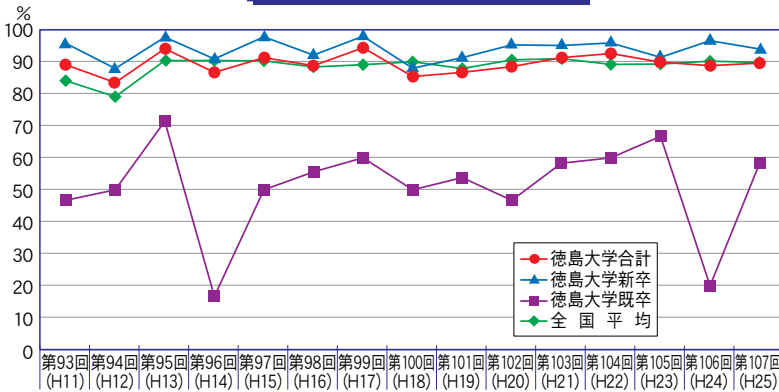
平成 25 年度 徳島大学医学部入学試験受験者・合格者数調・入学者数調

	定員	志願者	受験者	合格者数	入学者数	男	女	県内	県外	海外	現役	一浪	その他
医 学 科	114	684	394	※115	114	79	35	34	81	0	43	44	28
栄 養 学 科	50	202	129	53	52	3	49	16	36	0	45	6	1
保健学科	看護	70	301	193	73	70	3	31	39	0	55	7	8
	放射	37	140	99	38	38	32	14	24	0	22	14	2
	検査	17	61	55	18	18	5	7	11	0	12	6	0

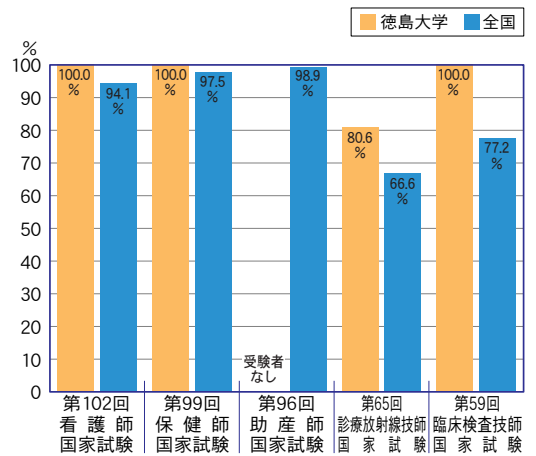
※入学手続き後、入学辞退者1名があったため追加合格者1名を出したことにより、合格者が115名となった。

## ◆ 国家試験

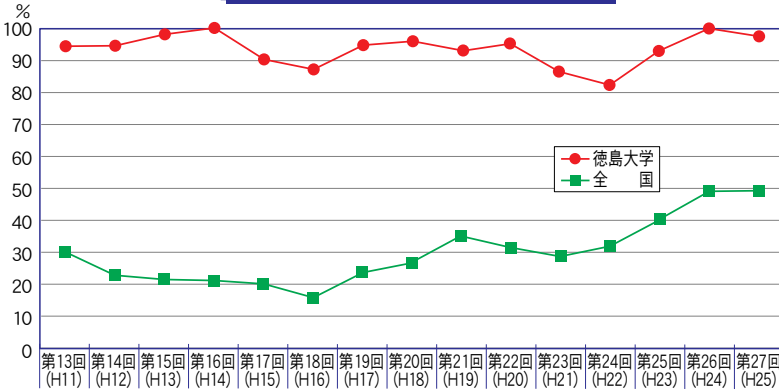
医師国家試験合格率の推移



保健学科 各種国家試験合格状況について



管理栄養士国家試験合格率の推移



## ◆ 科研費採択状況（医学部・附属病院の合計）

(平成 25 年 7 月 1 日現在)

研究種目名	平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
特定領域研究	4	28,900	2	8,600	1	4,800	0	0	0	0
基盤研究 A	1	11,500	1	11,500	0	0	0	0	0	0
基盤研究 B	15	75,500	19	92,600	19	78,900	18	80,700	16	68,200
基盤研究 C	69	89,800	78	82,400	87	108,800	90	109,200	96	113,100
挑戦的萌芽研究	5	6,300	11	18,200	23	32,800	25	31,400	22	27,800
若手研究 (S)	1	14,400	1	14,400	1	14,400	1	12,800	0	0
若手研究 (A)	4	19,900	4	19,100	3	19,500	3	11,500	1	5,400
若手研究 (B)	52	77,600	47	69,400	51	66,600	50	77,100	56	79,500
研究活動スタート支援	5	5,980	1	950	2	2,600	8	9,500	5	5,500
新学術領域研究	1	25,000	2	28,200	6	42,400	6	43,900	5	19,500
特別研究促進費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別研究員奨励費	5	3,400	5	3,500	4	2,800	3	2,700	2	1,800
合 計	162	358,280	171	348,850	197	373,600	204	378,800	203	320,800

## 新任教職員あいさつ



平成25年4月1日付けで、先端運動障害治療学分野に就任しました後藤 恵（さとし）と申します。私は九州・熊本出身で1981年に熊本大学医学部医学科を卒業し熊本大学脳神経外科学教室に入局しました。熊本大学医学系大学院（神経薬理学専攻）進学を契機に研究活動を開始し、米国アルバートアインシュタイン医科大学附属モンテフィオーレ医学研究センター（神経病理学部門）および独国マックス・プランク脳研究所（神経生理学部門）へ留学した後は、パーキンソン病やジストニアなどの大脳基底核疾患の病態生理の解明をライフワークとして研究および診療を継続しています。先端運動障害治療学分野はパーキンソ

ン病、ジストニア、脳卒中後の痙縮などの運動異常症（movement disorders）に対する新しい治療法の開発を目的として開設されました。この研究目標達成のために、現在は徳島大学ヘルスバイオサイエンス研究部臨床神経科学分野、脳神経外科学分野また神経病態解析学分野の先生方と連携し、国際的には米国マサチューセッツ工科大学（MIT）、豪国メルボルン大学、独国チュービンゲン大学等との共同研究を行っています。これからは運動異常症の治療を前提としたトランスレーショナルニューロサイエンスを主題に、神経機能再生医療と新薬開発に結びつくテーマについて研究および診療を行いたいと考えています。今後とも御支援よろしくお願い申し上げます。

### 先端運動障害治療学分野 特任教授 後藤 恵

院において栄養管理部という部署が新設されることとなったのを機に専門的に栄養療法を実践してまいりました。近年、栄養サポートチーム（Nutrition Support Team：NST）に代表されるように医療現場で医療の根本のひとつである栄養管理の重要性が認識されるようになり、基礎および臨床医学の飛躍的な発展もあり、医学に基盤を置く栄養学（医科栄養学）の充実が求められています。疾患治療栄養学分野では、従来の栄養学科の7分野のみならず関連する他の講座や学部とも連携し、大学病院と密接に連携した医科栄養学を教育するシステムを確立し、実践的な栄養療法の基礎を修得し高度化する医療に適応できる優れた管理栄養士養成を行うことを目指したいと思っております。今後ともご指導、ご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

### 疾患治療栄養学分野 特任教授 濱田 康弘

平成25年4月1日付けで、医療栄養科学講座疾患治療栄養学分野特任教授に就任いたしました濱田康弘と申します。また、本分野は大学病院栄養部と密接に連携して実践的な栄養療法を推進してい

くという目的もあり新設されましたので、大学病院栄養部長も兼任させていただいております。私は、兵庫県神戸市出身（私立甲陽学院高校卒）で、平成9年に和歌山県立医科大学医学部医学科を卒業し、卒業後は神戸大学医学部附属病院等で研修を行った後、神戸大学大学院医学研究科博士課程を修了しております。当初、糖尿病代謝・消化器・腎臓内科（神戸大学第2内科）に入局したのですが、平成19年に神戸大学医学部附属病

院において栄養管理部という部署が新設されることとなったのを機に専門的に栄養療法を実践してまいりました。近年、栄養サポートチーム（Nutrition Support Team：NST）に代表されるように医療現場で医療の根本のひとつである栄養管理の重要性が認識されるようになり、基礎および臨床医学の飛躍的な発展もあり、医学に基盤を置く栄養学（医科栄養学）の充実が求められています。疾患治療栄養学分野では、従来の栄養学科の7分野のみならず関連する他の講座や学部とも連携し、大学病院と密接に連携した医科栄養学を教育するシステムを確立し、実践的な栄養療法の基礎を修得し高度化する医療に適応できる優れた管理栄養士養成を行うことを目指したいと思っております。今後ともご指導、ご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 退職者ご挨拶



### 徳島大学とほぼ半世紀

昭和42年（1967年）に徳島大学に入学してから46年の間徳島大学に所属していたことになる。最初の20年間は2内科（森博愛教授）で過ごし、心電図と心血管系の電気生理学の研究を行って

いた。その当時、パッチクランプを用いて血管平滑筋のイオン電流を測定することは非常に難しかったが、苦勞してやっと測ることができるようになったことが一番記憶に残っている。イオン電流の研究は色々な人に興味を持ってもらい、他の教室から多くの人を送っていただいた。栄養学科に移ってからは、栄養学科の学生の興味からこの研究を続けるのは難しいと考え、動

### 代謝栄養学 教授 中屋 豊

脈硬化、糖尿病、臨床栄養などの研究に移った。振り返ってみると統一性のない研究生活になってしまった。頼まれると断れず次々といろいろなことを引き受けたため、最近では自分の時間が取れなくなった。この度、早く退職するのも、やり残した仕事（2000ページの栄養学の英語の翻訳、大学院生の学位論文など）を、時間をとり3月までに完成してしまおうと思ったためである。来年からは、県外の病院で一医師として入院患者の栄養管理を行う予定にしている。栄養学科は医科栄養学科と名前が変わり新しくスタートをしますが、これからもご支援をよろしく願います。

## 新任准教授紹介

異動年月日	異動内容	氏名	所属	異動年月日	異動内容	氏名	所属
H 25. 5. 1	昇任	南川 貴子	ストレス緩和ケア看護学	H 25. 8. 1	昇任	岡久 稔也	消化器内科学
H 25. 6. 1	採用	森田 明典	放射線基礎科学	H 25. 9. 1	昇任	西原 貞光	画像情報医学
H 25. 7. 1	昇任	高橋 正幸	泌尿器科学				

# 徳島大学医学部栄養学科創設50周年記念事業の報告

栄養学科長／栄養学科創設50周年事業委員会 委員長 宮本 賢 一

医学部栄養学科創設50周年記念式典、記念講演会および記念祝賀会が、平成25年8月31日ホテルクレメント徳島で関係者約350人が出席し挙行された。

まず、記念式典では、栄養学科長の式辞に続いて、香川 征学長、苛原医学部長から祝辞が述べられた。続いて、文部科学省高等教育局金子 実視学官から「これまで栄養学科は我が国の栄養学教育研究のリーダーとしての役割を果たして来た。来年4月に、医科栄養学科に改組されるが、文部科学省としても期待しており、栄養学の国際教育研究拠点形成に発展させて欲しい。」と高等教育局内藤敏也専門教育課長からの祝辞が披露された。

その後、小松龍史日本栄養士会会長、阿部啓子東京大学大学院特任教授、岩本太郎大塚製薬株式会社代表取締役社長（東 隆氏の代読）、齋藤史郎元徳島大学長からそれぞれ祝辞が述べられた後に、武田英二栄養学科教授から、「徳島大学医学部栄養学科の歩み」のテーマで栄養学科のこれまでの歩み、現況とこれから未来に向かっての抱負についてプレゼンテーションが行われ、閉会した。

続いて、記念講演会が行われ、笠 章子大塚製薬株式会社常務執行役員広報部長から「女性の仕事の可能性」、中村丁次神奈川県立保健福祉大学学長から「栄養学のさらなる発展を願って」、田中啓二東京都医学総合研究所所長から「タンパク質代謝に魅せられて」のテーマで特別講演が行われた。講師の笠氏、中村氏、田中氏はいずれも栄養学科の卒業生で、出席者は興味深い内容の特別講演に熱心に聴き入っていた。

この後、最後の行事である記念祝賀会が行われ、青野敏博前徳島大学長、川島 周徳島県医師会会長、高橋保子徳島県栄養士会会長から祝辞が述べられ、木戸康博日本栄養改善学会理事長のご発声で乾杯が行われて祝宴が催された。

また、祝宴の途中には、はな・はるフェスタ2013第10回阿波おどりコンテストで第3位に入賞した栄養学連による阿波踊りが披露され、ステージ上の栄養学連のすばらしい踊りに出席



者は魅了されていたが、その後、自然に出席者のほぼ全員が阿波踊りの渦に加わり、会場全体が阿波踊り一色となった。最後に、津田とみ栄養学科同窓会栄友会会長のご発声で万歳三唱が行われた後に、中屋 豊栄養学科教授から謝辞が述べられ、閉会した。台風15号が接近する中、当日は大雨を予想していたが、雨は一滴も降らなかった。参加者の思いが台風の速度を弱めたようである。最後に、50年前にスタートした50名の小さなクラスから、多くの優れた人材が育った歴史に感動した一日であった。



徳島大学は、学校教育法第69条の3第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準」を満たしていると認定されました。

(平成19年3月28日)

● 認証評価機関

独立行政法人大学評価・学位授与機構

● 認証期間 7年間

(平成19年4月1日～平成26年3月31日)

## 編集後記



MOOCs (Massive Open Online Course: “ムークス”) という言葉を聞いたことがあるでしょうか？ eラーニングによる大学発の無料公開講座ですが、将来の教育の在り方を左右するものです。Stanford 大学発の Coursera (コーセラ)、Udacity (ユーダシティ) や Harvard 大学と MIT 連合の Edx (エディクス) などが主に英語で配信しています。その内容は高度かつ実用的で、世界的な規模で聴講されています。その目的の一つは世界から学生を集めることですが、今後、日本はガラパゴス化しないように、幼少時から英語力を養うことが必要です。みなさんもぜひ聴講してみてください。

(森口博基)

発行 徳島大学医学部 編集 医学部広報委員会  
 広報委員 森口博基(委員長)、泉 啓介、安友康二、三田村佳典、酒井 徹、大塚秀樹、米原壽男

本誌へのご意見・ご要望は、(総務係) E-mail: isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp までお願いします。  
 なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。

Tel: 088-633-9118 Fax: 088-633-9028 URL <http://www.tokushima-u.ac.jp/med/>